

北海道教育委員会教育長 様

北海道足寄高等学校長 渋谷 圭

次のとおり令和４年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1 学びに向かう態度を醸成し、体験活動を通じて社会貢献に資する課題解決能力を育む。
2 自他尊重の視点を持ち、礼法等基本的な生活習慣を確立に資する自己管理能力を育む。
3 学びで得たメタ認知を活用し、自身の考えの構築や伝達に資する情報発信能力を育む。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・朝学習や学び直し講習、ハイレベル講習と、授業以外に個々の学力に応じた支援が出来ている。 ・学力の幅広い学級で生徒個々が目標達成に向けた学習習慣を確立させる指導体制を更に進める必要がある。	・明るく元気で異校種間交流の場面で素晴らしいコミュニケーション力を発揮している。 ・リーダーシップを発揮している生徒の姿が見られる。 ・幅広い学力層に対する指導は困難と察するが、教員集団が良く対応している。
改善方策	・基礎項目を学ぶ常活動により学習習慣の確立を、I C T活用を含めて継続して進める。 ・生徒個々の主体的な学習態度を育む、考查前や考查後の補講対応を継続する。 ・生徒の個別最適な学びを促進するために、公設学習塾との連携方法を改善する。	
生徒指導	・学校、家庭、地域が連携して生徒を見守っている。 ・下宿生には運営者や寮母、SCとの連携、教員による下宿訪問を行い、個別支援を行なっている。 ・授業での一人一台端末の活用に伴い、情報モラル教育の計画的な取組が必要である。	・他管内の生徒を含む下宿生や、管内の遠距離通学等多様な生活環境の生徒達が、学校での活動に集中できる環境をつくっている。 ・足寄高校生は学校外部でも穏やかで礼儀正しいことが地域で認識されている。 ・校内において、いじめ対策をしっかりと行なっていることがうかがえる。 ・学校・家庭・地域が連携して指導にあたっていることがうかがえる。
改善方策	・課題予防的生徒指導に重点を置いた生徒指導を学校全体で推進する。 ・適切な危機管理を迅速かつ組織的に行う。 ・情報モラル教育の年間計画を立て、生徒の自律を促す実践を行う。	
進路指導	・３学年生徒の進路決定率は100%だった。 ・外部講師による進路ガイダンスを各学年で複数回行ったことで、主体的な進路選択を促している。 ・各学年毎にテーマを設定した保護者向け進路説明会を実施し、三者面談の内容が充実した。 ・生徒の主体性を引き出すため、足寄町教育委員会や公設学習塾と共に研修会でコーチングのスキルを学び、学びの連携を深めた。	・多様な進路希望に対応した進路指導がなされている。 ・大学や公務員等高度な試験のある進路実現の支援ができている。 ・足寄高校の進学実績は将来の存続には欠かせない事項であることから、指導の充実に期待する。 ・町外出身の生徒の行動力やリーダーシップが高校全体の活性化に寄与している。
改善方策	・『総合的な探究の時間』を個々の進路指導につなげる。 ・進路相談の充実に向けて研修を継続して実施し、コーチングスキルを体得、個々の指導に活かす。 ・公設学習塾との連携のために、同じツールを使用することにより一貫した進路指導を行う。 ・インターンシップを『総合的な探究の時間』の課題解決の取組のひとつとして実施する。	
健康安全指導	・日常の基本的な感染対策を徹底して行っている。 ・足寄町のスクールカウンセラーの支援により、生徒の状況に応じた個別支援ができている。 ・緊急時の一斉配信メールを有効活用している。	・教員が積極的に生徒に関わり、スクールカウンセラーの活用等学校外の実力を活用している。 ・生徒の心身の問題に際して親身になって寄り添っていることがわかる。
改善方策	・スクールカウンセラー、パートナーティーチャー等学校外部の実力を活かした生徒理解・支援を継続する。 ・健康や安全に関する新たな課題に対して、研修をとおして高校教育に期待されることをよく理解し、適切な対応をする。 ・生徒や保護者への情報発信に際し、公式ウェブサイト、一斉配信メール、グーグル・クラスルームをそれぞれの情報の特性に応じて使い分けて運用する。	
信頼される学校づくり	・学校の様子や情報を公式ウェブサイトで即時発信し、地域や保護者の関心を引きつけている。 ・足寄町教育委員会との連携のもと学校説明会を実施した。 ・下宿生に対して、町教委や下宿との連携を適宜行い問題防止や危機管理対応を行った。	・地域連携が授業や授業以外の部活動等でも推進されていることをもっと外部にPRできると良い。 ・公式ウェブサイトでの情報発信は、多くの人に足寄高校の魅力が伝わっている。高校選びの参考になるような魅力的なものになるよう、更に努力してほしい。
改善方策	・入学者募集をねらいとする広報活動を展開するにあたり、公式ウェブサイトのデザイン、学校案内やポスターの内容やデザインを検討し、中学校訪問を広い地域で実施する。 ・足寄高校生が校外へ赴き、様々な活動を披露する機会を創出する。	
組織運営	・超過勤務は45時間以上勤務職員割合が第三四半期現在にて、すべての月で減少した。 ・分掌や学年を横断した情報共有はされている反面、協働体制の構築が課題である。 ・各委員会や外郭団体との業務における、教員間は協力体制ができています。	・多様な生徒への対応は先生どうしのコミュニケーションが欠かせないが、時間もかかるために多忙な状況を引き起こしてはいないか。 ・多忙の軽減は、教員の加配や地域が部活動指導を担うこと等により改善できるのではないか。
改善方策	・時間外勤務が全道平均や指標となる45時間以内を達成することを目指す。 ・スクールミッション、スクールポリシーの実現を軸とした組織体制をつくる。 ・業務の平準化と効率化を進める。 ・ICTの活用を促進する。	
教職員の資質向上	・授業公開、生徒の授業アンケート、座談会を開催し、各教科の課題と観点別評価運用の課題を共有し、メタ認知を促進した。 ・服務規律遵守に関わる通知や資料を活用した研修を実施し、啓発と注意喚起を継続した。	・高校が地域からの支援を受け、期待され、信頼されていることを先生方は常に意識してほしい。 ・学校運営に主体的に参画する教員の力量を高める努力に期待している。
改善方策	・授業におけるICT活用を推進するため、研修やOJTを計画的に実施する。 ・初任段階教員の成長とミドルリーダーの育成のため、学校経営へ主体的に参画することを促進する。 ・不祥事防止のための注意喚起、メンタルヘルスクア、タイムマネジメント等、教職員の資質向上のための研修を計画的に実施する。	
公表方法	・本校ウェブページへの掲載、保護者向け文書の配布、学校評議員会、PTA役員会での説明	

3 添付資料

(1)令和４年度「学校評価」シート